

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。寒さがひとしお身にしみることとなりました。2022年カタールワールド

カップ大会にての日本選手の活躍。1993年ドーハの悲劇から一転してドーハの歓喜と称えられた試合。堂安氏浅野氏のゴール、なんと言っても守護神権田氏の4連続ブロック“神セーブ”があつての勝利。コロナ禍の中暗くなる日本国民の気持ちが歓喜に変わった瞬間だったと思います。忙しい年末ですがお体に気をつけてお過ごしください。

サンライズの物語

出来ないことが増える悔しさ——

介護職として寄り添う物語



その方は、要介護となった奥様をこよなく愛し美味しい物を食べに毎日車で連れて行ったり、毎週旅行へと二人で出かけていた方でした。

そんな中ご主人の体調が悪くなり動けなくなってしまったのでした。何度か入退院を繰り返し自宅へと戻って来たのです。

退院時は体調も改善し奥様と食べ歩きに行こうと美味しいお店のパンフレットを取り寄せては行くのを楽しみにしていたのですが、突然状態が悪化してしまった時、ご主人がパンフレットを破り捨てるのを目の前で見た時に「何も破り捨てることはないですよ。また行ける機会がありますよ」と言うのが精一杯でした。悔しかったのだと思います。

その数日後自宅で息を引き取ったのでした。

健康な時は何気なく出掛けられた普通のことができなくなる悲しさを垣間見たとき・・・悔しい想いに触れたとき・・・

誰もがいつまでも健康であることを疑いもしない現実があります。

そんな時に何時も思うことは、どうして神様は人生の最後に私達に辛い試練を与えるのだろうかと考え、最愛の人と別れる悲しさを乗り越える強さをもらうのだと思います。

介護職として少しでも辛い想いに寄り添えればと考えます。

サンライズのデイサービス陽光だより

花壇

パンジーなど、色とりどりの冬の草花を植えています。



誕生日

誕生日カードを差し上げ、おやつでケーキを出しました。

皆さん「ありがとう」「ケーキ美味しい」と言って喜んで召し上がられていました。



NEWS 今月のニュース

「家族がちょっとずつ協力」 松嶋尚美さん、母の介護を ユーモア交え講演

介護について理解を深める「さが介護・健康・福祉フェア2022」（佐賀県主催、佐賀新聞社共催）が19日、小城市のゆめぷらっと小城で開かれた。タレントの松嶋尚美さんが「85歳の母親との同居介護が始まった」と題して講演し、家族が協力して介護に向き合う日常をユーモアを交えて話した。

松嶋さんの母親は大阪で暮らしていたが、膝を悪くして介助が必要になった。夫が同居を提案し、昨年末に東京のマンションに呼び寄せた。

介護に関する知識がない中で、「ケアマネジャー（介護支援専門員）さんに助けてもらっている」と

感謝。一方で、「魚の骨を取って食卓に出したら、ケアマネさんに怒られた。母にとって、魚を自力で食べることは大事なこと。世話を焼くだけが愛情ではないと分かり、目からうろこが落ちる思いだった」とエピソードを紹介した。

介護に関わってくれる夫や10歳の息子、9歳の娘にも感謝し、「家族がちょっとずつ協力してくれるおかげで、負担も『自分ばかり』とならずに済んでいる。母親と子どもたちの距離も縮まった」と振り返った。介護に向き合う秘訣（ひけつ）について、「1人で背負わず、無理をしないこと。ママ友みたいに、情報を交換できる人がいたらもっと楽になる」と話した。

介護の日（11月11日）にちなんだイベントで、食べやすさに配慮

した「ユニバーサルデザインフード」の調理体験や、タイハイ薬局による介護支援の取り組みを紹介する講座などもあった。（市原康史）



母親を介護する日常などについて語る松嶋尚美さん＝小城市のゆめぷらっと小城

<神戸新聞 2022/11/20(日)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>